

『大阪・関西万博／TEAM EXPO2025』を舞台にした、
イベント学会・地球産業文化研究所共創チームによる
「関西・歴史文化首都フォーラム」推進計画

【1】大阪・関西万博共創チャレンジ「関西・歴史文化首都フォーラム」事業の意義

「関西・歴史文化首都フォーラム」の提唱団体、イベント学会の初代会長であった木村尚三郎東大名誉教授（愛・地球博総合プロデューサー）は、「歴史文化は、先人達の命の輝きの軌跡であり遺産である。歴史文化を学ぶことは、未来を考えることだ」と発言され、2010年開催の平城遷都1300年記念事業では、「ふりかえれば未来」と提唱されました。

それを継承して、イベント学会では「関西」における国宝並びに重文、世界文化遺産と無形文化遺産の高い集積度と活動実績、さらには博物館や社会教育機関の充実度等において、「関西」が日本の「歴史文化の首都」である事と、それを生かした持続可能な地域づくりの可能性についての共同研究を進めて参りました。

大阪・関西万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」の「未来」を考えるには、まさに歴史文化を学ことが重要な足がかりとなるとの思いから、この度、『大阪・関西万博～TEAM EXPO2025』プロジェクトにおいて、「関西・歴史文化首都フォーラム」を推進する多様な産官学市民主体を結び繋げる『共創チャレンジ』の企画・実践に取り組む事となりました。

本プログラムは、万博史上初の市民参加型万博を成功させた「愛・地球博」の理念継承を積極的に活かした活動です。また、万博の名称『大阪・関西万博』の「関西」の存在感と地位を国際的に高める上でも、「日本の歴史文化首都のポテンシャルを持つ関西」の物語化と万博事業とのカップリングでの情報発信は、開催前、開催時においても、レガシーとしても、大きな社会的影響力を生み出す「みなもと」になり得ると確信します。

BIEが示す通り、万博は広報外交、ソフト・パワーの発信の場としての重要な役割を持ち、国や文化に対する認識を変える力があります。「関西・歴史文化首都フォーラム」においては大阪の万博会場だけでなく、関西2府4県のユネスコに登録された世界文化遺産の魅力を中心に有形・無形の様々な文化遺産を世界に広報するなど、万博会場から離れた場所であっても、一人でも多くの国民が万博事業と連携し、事業への参画意識を持てるよう促すことは社会教育、SDGs啓発活動としても重要な取り組みと期待できます。

「関西」の持つこの国の成り立ちの歴史や伝統文化のソフト・パワーの発信を通じて、付加価値の高いコンテンツ産業の応援に取り組むことで、開催国や海外からの参加者の認識を高め、国のイメージや評判を形成・向上させ、日本と関西の広報外交と観光産業、教育産業の発展につなげていきたいと考えます。

【2】「関西・歴史文化首都フォーラム」の開催方針

本事業は、以下の様な開催方針を持って推進します。

（1）2022 年～2025 年（万博開催年）の連続開催事業とします。

2022 年から準備活動をスタートして、万博開催の 2025 年迄の 4 年間の連続事業として推進します。「関西」を構成する 2 府 4 県（滋賀県／京都府／大阪府／兵庫県／奈良県／和歌山県）で、順次「関西・歴史文化首都フォーラム」を開催し、その集大成として 2025 年は万博会場にて事業展開を計画します。

（2）参加対象者は『関西・歴史文化首都』関連の多様な産官学市民団体等のリーダーです。

参加対象者は、文化庁や観光庁をはじめ歴史文化関連機関や学術団体関係者、2 府 4 県の地方行政者、教育関係者と博物館などの社会教育関係者、ガイドも含めた文化観光交流産業のリーダー等で積極的にメンバー参加を促進します。

（3）「関西・歴史文化首都フォーラム」の関連事業の展開を推奨します。

「関西・歴史文化首都フォーラム」推進委員会は、2 府 4 県で「フォーラム」を順次開催しますが、『関西・歴史文化首都』ムーブメントを盛り立てていくために、開催地の状況に応じて、関連の「情報展」「食文化交流会」「歴史・文化体験」などの付帯事業を展開することも推奨していきます。

（4）「関西・歴史文化首都フォーラム」の広報活動・情報発信活動を推進します。

広報活動と情報発信活動は、「関西・歴史文化首都フォーラム」のホームページや SNS を活用した自主活動とメディアとの協力関係による活動で構築します。

また、2025 年の万博会場での展開内容も含め、オンライン参加（YouTube 等）の手法など博覧会協会と連携した情報発信を計画します。

展開イメージ

